



巻頭言

「ニューノーマル時代の日本分類学会」

日本分類学会会長 宿久 洋

2021年度～2022年度の会長職に選出されあつという間に1年が経とうとしています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあり、これまでとは異なる環境での1年でした。ここでは、あらためて本学会の活動を確認するとともに、この1年の活動を振り返りながら日本分類学会の今後の展望について述べたいと思います。

(1) 海外組織との研究交流

本学会の大きな特色の1つに国際的なつながりの強さがあります。まず、あげられるのはIFCS (International Federation of Classification Societies) です。IFCSは1985年に本学会および米国、英国、独逸、仏国、伊国の分類関係の学会の連合組織として設立されました。設立当初の本学会の代表は林知己夫先生、矢島敬二先生であり、IFCSの会長はH. H. Bock先生です。この6学会から始まったIFCSですが、現在では18の組織を有するまでに発展してきました。IFCSは1987年から国際会議を開催しており、現在までに16回開催されています。そのうち2回は日本での開催です。その17回目の大会が2022年7月にポルトガルのポルトで開催される予定です。この他にも、本学会の先輩会員の尽力により、海外の学会との交流も盛んです。その1つの成果が、Springer社から公刊されているジャーナル“Advances in Data Analysis and Classification”です。このジャーナルは、CLADAG (イタリア分類学会)、GfKIドイツ分類学会、ならびに本学会によって創刊されました。

また、ドイツ、イタリアとはそれぞれ2国間の交流もあり、日独分類シンポジウム、日伊分類シンポジウムが開催されています。前者の方は、2023年に日本で開催すべく計画を進めています。後者の方はイタリア開催から少し時間が経っていますが、できることなら近々の日本開催を企画したいと考えております。

このような国際交流は一朝一夕にしてできるものではなく、先輩諸氏の並々ならないご尽力によって築かれてきたものです。この成果を引き継いでいくことが我々の世代の役目だと思っており、会員各位のご協力をお願いしたいと考えております。

<目次>

・巻頭言「ニューノーマル時代の日本分類学会」	1
・大会・セミナー・シンポジウム関連報告	
大会開催報告	2
シンポジウム開催報告	3
セミナー開催報告	5
・学会賞・フェローについて	
日本分類学会 学会賞およびフェローについて	5
日本分類学会 2021年度 学会賞・フェロー	5
日本分類学会 2020年度 フェロー授与選考理由について	6
日本分類学会 2020年度 学会賞受賞者より	6
・学会議事録等	
2020年度総会議事録	8
評議員会議事録	10
・事務局から	19

(2) 機関誌の発行

本学会では、和文の論文誌として2012年から和文誌「データ分析の理論と応用」を発刊しております。初代編集委員長岡太彰訓先生、次代編集委員長吉野諒三先生のもと順調に公刊を続けており、2022年で10周年を迎えます。

欧文誌については、国際交流でも触れましたが、2007年からドイツ分類学会(German Classification Society) およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group) と共同で、Springer社から年3回刊行しています。また、2018年から、統計関連学会連合のOfficial JournalとしてJapanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) が刊行され、本学会も協力し、編集に参画しています。

(3) 学術的会合など

本学会は、年間に大会1回、シンポジウム1回の研究発表会を開催しています。昨年より、コロナ禍の影響により、対面での会合が難しい状況にありましたが、関係者のご尽力により、ハイブリッドという形で滞りなく開催させていただいております。ハイブリッド開

催ということで、これまで以上の参加人数となっており、会員のニーズに合った開催形態という評価をしております。今後の開催形態について様々な状況を勘案してということになるかと思いますが、引き続きハイブリッド開催を中心に考えたいと思っております。

近年、学生およびその指導教員を中心に会員の増加がみられます。これからも、魅力的な学会行事を行うことにより、会員サービスの向上、会員交流の活発化を図っていききたいと考えております。

以上、大きく3点について所感を述べさせていただきました。今後の日本分類学会の発展にいささかなりとも貢献できればと考えておりますので、会員のみなさまの協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

大会・シンポジウム・セミナー関連報告

○ 大会開催報告

日本分類学会第40回大会開催報告

大会実行委員長 林 邦好 (聖路加国際大学)

日本分類学会第40回大会を2021年7月3日(土)に聖路加国際大学 大村進・美枝子記念 聖路加臨床学術センターで開催いたしました。本大会の開催期間は1日間でしたが、コロナ禍にも関わらず30名以上の方々にご参加いただき、活発な研究発表、情報交換が行われました。16件の一般講演に加え、学生発表セッションも行われ、大変、有益な大会になりました。

なお、本大会はオンラインとオンサイトのハイブリッド方式により開催し、会場では非接触タイプの検温器や非接触型自動アルコールディスペンサーを用いるなどCOVID-19の感染対策を徹底いたしました。ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさまのご支援とご協力により、日本分類学会に貢献された柳井晴夫先生とゆかりのある本学にて第40回大会を無事開催できましたことに改めて厚く御礼申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション

座長：山本倫生 (岡山大学)

・複数アウトカムに対する処置効果の推定について
柚木慎太郎, 宿久 洋 (同志社大学)

・個体の分類を伴う正則化行列因子分析
三田村 倭 (大阪大学)

・Box-Cox 変換に基づく Multivariate Cluster Elastic Net について
大井海渡, 柚木慎太郎, 宿久 洋 (同志社大学)

一般セッション I

座長：宿久 洋 (同志社大学)

・スパースな経時測定データに対する関数クラスタリング

山本倫生 (岡山大学), 寺田吉彦 (大阪大学)

・因子負荷量とともに因子間相関の単純構造を考慮した斜交回転法

足立浩平 (大阪大学)

・On diagnostics for high-dimensional statistics based on a regularization approach

林 邦好 (聖路加国際大学)

・多項分位点回帰モデルにおける棄却法を用いた事後分布の推定

松岡航希 (株式会社エヌ・ティ・ティ・データ), 岡部格明, 土田潤 (同志社大学)

一般セッション II

座長：足立浩平 (大阪大学)

・Hybrid autocoding method for the Family Income and Expenditure Survey

床 裕佳子 (独立行政法人統計センター), 佐藤 美佳 (筑波大学)

・2 値アウトカムに対する受粉アウトカムフォレスト法の開発

下川敏雄, 関谷侃宏 (和歌山県立医科大学)

・連文節による書き手の識別

柳 燁佳, 金 明哲 (同志社大学)

・ハンドボールのキーパーの分類について

川村陸哉, 山本義郎 (東海大学)

・Covid-19 と SDGs の時代に市民が生み出すデータ

角田弘子 (日本ウェルネススポーツ大学), 林文 (東洋英和女学院大学)

・怪談のパターンと想起される感情の分類

河瀬彰宏 (同志社大学), 小川 耀 (りらいあコミュニケーションズ株式会社)

一般セッション III

座長：林 邦好 (聖路加国際大学)

・因果媒介分析の遺伝栄養データへの応用
万可, 関谷侃宏, 牟礼佳苗, 下川敏雄 (和歌山県立医科大学)

・浮遊飛沫のマスク内へのもれ率に基づいた顔貌の分類
大西一成 (聖路加国際大学)

・「データの持つ力を解き放つ人」になる覚悟
内藤貴基 (聖マリアンナ医科大学)

・介護や死に直面した経験の有無による死生観の違いについて
矢野 岬 (EPS ホールディングス株式会社), 林 邦好 (聖路加国際大学)

・女性の大腸内視鏡検査への意識調査
荒川裕香 (豊田地域医療センター), 林 邦好 (聖路加国際大学), 久賀孝郎, 大杉泰弘 (藤田医科大学)

・乳幼児の保護者が行う Covid-19 感染予防行動に関する調査
後藤美佳 (藤田医科大学), 林 邦好 (聖路加国際大学), 久賀孝朗 (藤田医科大学), 上松東宏 (豊田地域医療センター), 小林大輝 (聖路加国際大学), 大杉泰弘 (藤田医科大学)

○シンポジウム開催報告

■2020 年度日本分類学会シンポジウム開催報告

シンポジウム実行委員長 富田 誠 (横浜市立大学)

2020 年度日本分類学会シンポジウムを 2021 年 3 月 21 日 (日) に松江テルサ (島根県) で開催いたしました。約 35 名に参加いただき、活発な研究発表、情報交換ができたと思います。また 6 件の一般講演に加え 5 件の学生発表セッションも行われ、大変、有益な大会になったと感じています。シンポジウム実行委員長として、ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさんに、感謝申し上げます。

シンポジウムにおける各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション

座長：下川敏雄 (和歌山県立医科大学)

・ワッサーシュタイン距離を用いた正準相関分析について
橋口舜弘, 岡部格明, 宿久 洋 (同志社大学)

・沖縄・関東・東北の 3 地域のバケットリストの分類
～人は人生の最期に何を食べたいのか? 飲んでおきたいのか?～

中西絵里香, 林 邦好 (聖路加国際大学), 中島信久 (琉球大学), 神谷浩平 (一般社団法人 MY wells 地域ケア工房), 田上恵太 (東北大学), 鈴木尚樹 (山形県立中央病院), 本成登貴和 (敬愛会中頭病院), 内藤明美 (宮崎市郡医師会病院), 森田達也 (聖隷三方原病院)

・ラベル付きデータに対するテンソル正準相関分析
坂本健太, 岡部格明, 宿久 洋 (同志社大学)

・2 成分混合回帰モデルを用いた COVID-19 初感染までの時間に影響を与える要因の分析
高橋正憲, 羅 明振, 栗原考次 (岡山大学)

・ロバストオンライン線形判別分析について
瓦井蒼之, 高澤一平, 宿久 洋 (同志社大学)

一般セッション I

座長：阿部寛康 (京都大学)

・ Identification of Biliary Atresia Using Convolutional Neural Networks

林 邦好 (聖路加国際大学), 星野絵里 (立命館大学), 鈴木光幸 (順天堂大学), 堺 琴美 (聖路加国際大学), 大島雅之 (高知大学)

・2 次元カーネル密度の対を用いた投手のストライク判定確率の分類

今田一希, 山本義郎 (東海大学)

・ベイジアン NMF における行列分解可能性に関する考察

阿部寛康 (京都大学)

一般セッション II

座長：石岡文生 (岡山大学)

・エンタングルメントの発想に基づく地震年表データの分析

石塚隆男 (亜細亜大学)

・繰り返し測定を考慮した同等性評価のための four-quadrant plot に基づく Concordance Rate について
平石麻友 (和歌山県立医科大学), 谷岡健資 (同志社大学), 下川敏雄 (和歌山県立医科大学)

・エシェロン法による COVID-19 の時空間クラスターについての考察

竹村祐亮, 石岡文生, 栗原考次 (岡山大学)

■2021 年度日本分類学会シンポジウム開催報告

シンポジウム実行委員長 富田 誠(横浜市立大学)

2021 年度日本分類学会シンポジウムを 2021 年 12 月 11 日 (土), 12 日 (日) に大濱信泉記念館 (沖縄県石垣市) で開催いたしました. 約 57 名に参加いただき, 活発な研究発表, 情報交換ができたと思います. また 5 件の一般講演に加え 16 件の学生発表セッションも行われ, 大変, 有益な大会になったと感じています. シンポジウム実行委員長として, ご参加いただきましたみなさま, スタッフのみなさんに, 感謝申し上げます.

シンポジウムにおける各セッションの講演は以下の通りです.

2021 年 12 月 11 日 (土)

学生発表セッション I

座長: 山本義郎 (東海大学)

・Bang and Robins 流の拡大された OW 推定量の構成と傾向スコアモデルの頑健性の向上

天本友梨香, 折原隼一郎, 田栗正隆 (横浜市立大学)

・時間依存型共変量を考慮した Cox 比例ハザードモデルによるプロ野球選手登録期間の分析

樋口 史, 羅 明振, 栗原考次 (岡山大学)

・歩行時 AI 姿勢推定における異常パターンの検出

杉山雄紀, 宇野光平, 松井佑介 (名古屋大学)

・f-divergence を用いた分割表におけるクラメール係数の一般化について

浦崎 航, 桃崎智隆, 中川智之, 富澤貞男 (東京理科大学)

・Karhunen-Loève 展開に基づく関数データのリサンプリング法について

佐々木将輝, 寺田吉彦 (大阪大学)

・歩行時筋活動におけるウェーブレット解析と解釈のための次元縮小アプローチ

池田陽夏, 宇野光平 (名古屋大学), 野島一平 (信州大学), 松井佑介 (名古屋大学)

学生発表セッション II

座長: 山田隆行 (島根大学)

・Interquartile 推定量に基づく傾向スコアのモデル選択について

東海林岳寛, 土田 潤, 宿久 洋 (同志社大学)

・中点代入法を用いた区間打ち切りデータに対する境界内平均生存時間の推定

大倉裕希, 稲尾 翼, 横田 勲 (北海道大学)

・名義カテゴリ分割表における f-divergence を用いた変動の縮小度を測る尺度について

和田裕希, 桃崎智隆, 中川智之, 富澤貞男 (東京理科大学)

・空間補間法を利用した岡山県の確率雨量の可視化について

三箇健太, 石岡文生, 栗原考次 (岡山大学)

・トレンドとクラスターの同時推定によるクラスタークリギング法の提案

酒井俊樹, 土田 潤, 宿久 洋 (同志社大学)

学生発表セッション III

座長: 水田正弘 (北海道大学)

・個々のゲノム情報を考慮した変異ペプチドに基づく異常タンパク質の同定方法とアルツハイマー病への応用

都築凜華 (名古屋大学), 阿部雄一 (愛知県がんセンター研究所), 宇野光平, 松井佑介 (名古屋大学)

・複数の外部データをベイズ流に統合する臨床試験デザイン提案

高橋圭太, 田中司郎 (京都大学)

・順序カテゴリ正方分割表における非対称性の程度と方向を測る尺度

桃崎智隆, 中川智之 (東京理科大学), 生亀 清貴 (日本大学), 富澤 貞男 (東京理科大学)

・Prospective echelon scan による時空間クラスター検出手法の提案

神原あん, 竹村祐亮, 石岡文生, 栗原考次 (岡山大学)

・A Bayesian method for comparing F1-scores in the absence of a Gold Standard

田村 惇, 三枝祐輔, 山本紘司 (横浜市立大学)

2021年12月12日(日)

一般セッションⅠ

座長：宿久 洋 (同志社大学)

・二値アウトカムにおける逐次検定手法の性能比較
稲尾 翼, 横田 勲 (北海道大学)

・日本における新型コロナウイルスの感染状況の分類
四條拓哉, 山本義郎 (東海大学)

・区間組成データに対する重み付き回帰分析
藤本 聖, 佐藤美佳 (筑波大学)

一般セッションⅡ

座長：石岡文生 (岡山大学)

・高次元小標本における特徴選択手法について
玉谷 充, 山田隆行 (島根大学)

・クラスタリングにおける汎用的な計算コスト削減法について
寺田吉彦 (大阪大学), 山本倫生 (岡山大学)

○セミナー開催報告

久保田貴文(多摩大学)

・2021年度データ分析セミナー

2021年10月30日(土)にZoomにてオンラインで2021年度データ分析セミナーが開催されました。日本分類学会の会員のみならず非会員の方にも多数(計23人)ご参加いただきました。セミナーは以下の通り、午前の部、午後の部の二部構成でした。

午前の部:「Rでの地理情報の可視化」

セミナー担当:久保田貴文(多摩大学)

午前の部では自ら政府統計(e-Stat)のデータ、特に地理に関連する都道府県別や市区町村別のデータをAPIから取得し、そのデータの整形、集計、コロプレスマップを用いた視覚化を行いました。さらに、地図の上に地理データを重ねることで視覚化することも行いました。それにより、午後の部の地理データによる空間分析へとつなぐ最初の段階である視覚化を実施するスキルを習得しました。

午後の部:「空間データにおけるホットスポットの検出とその実践」

セミナー担当:石岡文生(岡山大学)

午後の部は、「空間スキャン統計量」を用いて、「どこかにホットスポットはあるのか?それとも全体的にばらついているのか?」「ホットスポットが存在して

いるとしたら、どの範囲までがそうなのか?」といったことを、統計的根拠に基づいて決定する方法について、初歩的な部分から説明するとともに、Rパッケージをはじめとするそれら一連の解析を行うためのソフトウェアについて、演習を交えながら解説しました。

学会賞・フェローについて

○日本分類学会 学会賞およびフェローについて

会長 宿久 洋 (同志社大学)

日本分類学会では、学会賞として「貢献賞」「論文賞」「奨励賞」の3つの賞が設けられています。また、2016年度より「分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績のあった方」を授与対象としたフェロー授与制度を設置しています。

2021年度は次の方々が学会賞、フェローの称号を授与されました。

○日本分類学会 2021年度 学会賞・フェロー

2021年度の学会賞受賞者として、貢献賞には宮本定明会員、論文賞には中山厚穂会員、奨励賞には稲尾翼会員が選ばれ、2021年7月4日に開催された2021年度総会で授賞式が行われました。また、同総会において、水田正弘会員にフェローの称号が授与されました。

日本分類学会貢献賞

宮本 定明 会員 (筑波大学名誉教授)

主な選考理由

宮本定明氏は、本学会の重要研究領域であるクラスタリングにおいて、基礎数理の研究並びに新たな手法の開発に顕著な研究業績を残され、一流国際誌に数多くの論文が掲載されています。また、ファジィ集合論の基礎やソフトコンピューティングの理論と応用に関する複数の欧文、邦文による優れた著書を発刊し、国内外へ強い影響を与えました。さらに、データ科学としての分類学の発展と普及への顕著な功績に対して、2017年度には日本分類学会フェローの称号が授与されています。

以上のように、同氏の研究活動及び学会における指導、育成等の活動による「分類に関する研究の発展」への貢献は多大であることから、貢献賞を授与しました。

日本分類学会論文賞

中山 厚穂 会員 (東京都立大学)

中山厚穂氏の下記論文について、論文賞を授与しました。

対象論文: Atsuhiko Nakayama and Daniel Baier (2020). Predicting brand confusion in imagery markets based on deep learning of visual advertisement content, *Advances in Data Analysis and Classification (ADAC)*, 14(4), 927-945.

本論文では、深層学習における畳み込みニューラルネットワーク(CNN)を用い、顧客が画像や動画などの視覚的コンテンツによる情報をもとに各ブランドをどのように識別し混同しているかを分析する新しいアプローチを提唱しています。また、ドイツのプレミアムピルスビール市場のデータに適用し、独自のポジショニングを持つブランドは良い予測精度を示す一方、一部のブランドには混同の可能性があることを示しました。本論文で得られた結果は、マーケティングの理論および実用において、データ科学としての分類学への寄与は高く、論文賞に十分に値すると思われる。

なお、中山氏は2016年度に一度論文賞を受賞されていますが、論文賞は論文を対象として授与するという趣旨に基づき、本論文を2021年度の論文賞授賞対象論文としました。

日本分類学会奨励賞

稲尾 翼 会員 (北海道大学)

主な選考理由

稲尾翼氏は、日本分類学会第39回大会において「陽性の頻度が稀な診断結果データに対する gold standard な検査法がない場合の感度・特異度推定」と題した優れた発表をし、優秀学生発表賞を受賞されました。

本研究では、COVID-19のように陽性の頻度が稀な診断結果データにおいて gold standard な検査法が存在しない状況で、潜在クラスモデルを用いた感度・特異度の性能評価を行っています。また、感度、特異度、有病率に事前分布を仮定した場合の推定結果のバイアス、平均二乗誤差についてマルコフ連鎖モンテカルロ法(MCMC)を用いて評価しています。さらに、適用例として新型コロナウイルスの検査法の比較研究とほぼ同等な性能があることを示しました。

現在、大学院生であることから、今後応用面での一層の活躍が期待でき、奨励賞を授与しました。

○日本分類学会 2021年度 フェロー授与選考理由について

2021年度のフェロー受賞者として水田正弘会員(北海道大学)にフェローの称号が授与されました

授与理由

水田正弘氏は、多変量データ、シンボリックデータ、関数データ、分布値データ、時空間データ、さらに、ビッグデータや超高次元データといった多種多様なデータに対する可視化と最新の手法によるデータ分析とその応用に多くの研究成果を残されています。また、最近では、メタ解析に関する論文を公表しています。本学会における研究成果の公表では、昭和61年に開催された第3回の分類の理論と応用に関する研究報告会以降、IFCSでは1989年以降、数多くの発表をなされ、特にIFCS2004においてはSpecial Invited Talksに選出されました。

本学会では、運営委員を11期、渉外幹事3期、会計幹事1期、編集委員会委員を担当するとともに、第36回大会では大会委員長を務められ、本学会の活動に顕著な貢献をなされました。

これまでの学会に対する貢献及び研究活動は、分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績を挙げたと十分に考えられ、フェローの称号を授与しました。

○学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して

宮本定明 (筑波大学名誉教授)

この度、栄誉ある日本分類学会貢献賞を頂きましたこと、誠に身に余る光栄に存じます。これまでお世話になった先生方ならびに関係の皆様方に深く感謝致しますと同時に、今後も可能な限り研究に精進して行きたいと存じます。

私がクラスター分析と出会ったのは、大学院博士課程を修了し、筑波大学に奉職した後のことです。大学院での研究分野は、関数解析的手法による制御システムの研究という、統計や多変量解析とは異なるものでしたが、筑波大学では学術文献情報データベースの分析というテーマに従事することとなり、いくつか調査した論文のなかに、階層的クラスター分析を利用しているものが見つかりました。単純な技法であるにもかかわらず、樹形図という直感的にわかりやすい結果が得られ、様々な応用分野において有用であると思われること、その一方で、数理的技法としては問題点をはらんでいることもわかり、この方法を研究してやろうという気になりました。文献情報について、いくつかの拙い論文を刊行することができましたが、その後もクラスター分析に対する関心は続き、とうとう現在まで、私の主な研究テーマとなるに至りました。

私がクラスター分析の研究をはじめた経緯は上記のように応用分野からのものですが、現在までこのテーマを継続しているのは、主に理論的な興味によるものです。研究対象は 20 代の終わりからはじめた階層的技法と、40 代半ばよりはじめた fuzzy c-means (K-means のファジィ版) の 2 つに分かれます。主な研究成果はいくつかの著書にまとめております。前者については、1990 年に英文の著書を発表し、後者については 2008 年に共著によりやはり英文の著書を刊行しました。また、邦文の著書を 1999 年に出しておりますが、その中では階層的技法と fuzzy c-means の両方を扱っております。

Fuzzy c-means では様々な理論的成果が得られるのに対し、樹形図を出力する階層的技法では、格段に理論的研究は難しくなるのですが、自分自身の愛着はむしろ階層的技法のほうにあります。現在階層的技法に関する短い英文著書を執筆中ですが、公にされた時には、少しでも皆様のお役に立てればと願っております。

退職後 70 歳を過ぎた現在でもどうか研究を続けていられることは、誠に皆様方のおかげと思っております。末筆になりますが、本学会の更なる発展と、当該分野の進展、皆様のご研究の進歩を祈りつつ、ご挨拶に代えさせて頂きたく存じます。



宮本 定明
(みやもと さだあき)

筑波大学名誉教授、
工学博士 (京都大学)
1978 年京都大学工学
研究科博士課程修了、
1973 年 5 月筑波大学

準研究員、1981 年筑波大学電子・情報工学系講師、
1987 年同助教授、1990 年徳島大学工学部教授、1994
年～2016 年 3 月筑波大学教授、2016 年 4 月同名誉教
授、2016 年 4 月～2022 年 3 月筑波大学特命教授

日本分類学会論文賞を受賞して

中山 厚穂 (東京都立大学)

この度は図らずも日本分類学会論文賞受賞という栄
誉ある賞をいただきましてありがとうございます。本
論文は Prof. Dr. Daniel Baier (Bayreuth University,
Germany) との共同研究の成果をまとめたものにな
ります。Prof. Dr. Daniel Baier とは、2018 年度の在
外研究の際に客員研究員として受け入れていただき共
同研究をスタートいたしました。私が、ドイツに滞在
していた際には本学会が開催、後援した国際学会がド

イツ国内で多く開催されました。2018 年 7 月には第 7
回独日分類シンポジウムが Dortmund で、European
Conference on Data Analysis (ECDA)2018 が
Paderborn でそれぞれ開催され、2019 年 3 月には
ECDA2019 が Bayreuth University で開催されまし
た。在外研究期間中の研究者との交流や、これらの国
際学会への参加・発表を通じて、研究についての意見
交換などを行うことができ貴重な経験をすることがで
きました。本学会がこれまでに国際交流や活動に重点
をおいて活動を行ってきた下地があってこそ有益な研
究を行うことができたことより感謝いたしております。

本論文は、Advances of Data Analysis and
Classification (ADAC)での ECDA2019 に関連した
Special Issue に採択された論文になります。本研究で
は、写真や動画の広告を対象としてブランド混同の予
測のために Deep Learning を用いた研究を実施しま
した。近年、Deep Learning を用いた識別や分類に関
する研究が多く行われており、マーケティング分析の
ために古典的なモデルと組み合わせることで新たな示
唆を導出することが試みられています。そこで、本研
究ではブランド広告の効果を検証するために、広告を
提示した際に広告が正しく識別されるかどうかを実験
するブランド混同実験の代替として、Deep Learning
を用いたアプローチ法の適用可能性についての検討を
行いました。その結果、ブランド・ポジショニングを
解明することができ、提案アプローチの有用性が示さ
れました。Deep Learning による画像認識と人間による
ものと類似点や相違を明らかとすることで、マーケ
ティングにおける応用可能性が高まるのではないかと
考え継続して研究を行っていきたくと考えています。

最後に、このような研究の成果を得ることができた
のも、本学会がこれまでに多くの国際交流や活動を行
い、素晴らしい研究環境を提供して下さったお陰であ
ると感謝しております。今後は、学会活動に少しでも
貢献できるよう一層努めていきたくと考えております。

中山 厚穂

(なかやま あつほ)



立教大学経営学部助
手・助教、長崎大学経
済学部准教授を経て、
2010 年 10 月より首都
大学東京大学院社会
科学研究科 (現東京都
立大学大学院経営学

研究科) 准教授。日本分類学会幹事 (2009 年～現在)、
運営委員・評議員 (2011 年～現在)。

日本分類学会奨励賞を受賞して

稲尾 翼 (北海道大学)

錚々たる素敵な会員の方々の中から日本分類学会奨励賞に選出いただき、皆様のご厚意に感謝するとともに大変嬉しく思います。指導教員である横田勲先生、日頃から特に数多の議論を交わして下さる共同研究者の岡田和史さんと楊一馳さん、そしていつも支えて下さる研究室の皆様にも感謝申し上げます。

本学会に関連して、日本分類学会第 39 回大会にて 1 件の発表をさせていただきました。この大会で発表した「陽性の頻度が稀な診断結果データに対する gold standard な検査法がない場合の感度・特異度推定」という研究は、新型コロナウイルス感染症に関する厚生労働科学特別研究の活動から生まれたテーマです。研究開始時点において不明瞭な部分が多く存在した新型コロナウイルスについて、頻用される鼻咽頭液による診断法と有用であると期待される唾液による診断法それぞれの性能を、感度と特異度から比較するという内容でした。大会中にいただいた先生方からの貴重なコメントによって、論文化の際にはさらに洗練された報告になり、感謝に堪えません。

私自身、この第 39 回大会が人生で初めての学会発表であり、感慨深い思い出があります。今回の研究活動を振り返って、ある学びを得ました。それは、研究活動から得られる知識や知恵が喜びを与えてくれることです。学部を卒業するまでまともな研究経験がなかった私ですが、多くの方の支援の下で計画の立案や解析手法の選択、結果の考察方法など、「座学でわかったつもりになっていた」事項が実際に体験することで整理されました。また、何度も発表練習を繰り返し自分の中に報告内容を染み込ませることで、ただの説明ではなく自分の言葉で説明するような論調に好転するだけでなく、新たな疑問へと繋がる研究の穴を認識することもありました。まさに、座学での理解から自由に使いこなすフェーズへと変化したことで、研究に対する面白さを感じた瞬間であります。

奨励賞をいただいた経験を励みに、引き続き研究活動に精進してまいります。今後とも倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。



稲尾 翼

(いなお たすく)

2020 年明治大学総合数理学部現象数理学科卒業。同年 4 月より北海道大学大学院医学院修士課程入学。現在、同大学修士課程在学中。

学会議事録等

○2020 年度総会議事録

日本分類学会 2021 年度総会 議事録

開催日時：2021 年 7 月 4 日(日), 10:00-11:30

会 場 : Zoom によるオンラインでの開催

■議長の選出

議長として、東北大学の船山貴光氏が推薦され、承認された。

議題

◆報告事項

1. 第 40 回大会について

林(邦好)実行委員長より、第 40 回大会を 2021 年 7 月 3 日に聖路加国際大学大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター(東京都中央区)、およびオンラインによる並行開催で行った旨、報告がなされた。

2. 2021 年度シンポジウムについて

富田幹事長(同シンポジウム実行委員長)より、2021 年度シンポジウムを 2021 年 12 月 11 日-12 日に大濱信泉記念館(沖縄県石垣市)、およびオンラインによる並行開催で準備を進めている旨、報告がなされた。

3. 2021 年度データ分析セミナーについて

富田幹事長より、2021 年度データ分析セミナーの準備状況について報告がなされ、開催形式、テーマ、開催時期等について説明がなされた。

4. 第 8 回日独分類シンポジウムについて

宿久会長より、コロナ禍の影響により延期している同シンポジウムについて、具体的な日程等を示すのは難しい状況であるが、水田氏(同シンポジウム担当)とともに開催に向けて引き続き調整を行う旨、報告がなされた。

5. 2021年度統計関連学会連合大会について
宿久会長より、2021年度連合大会は2021年9月5日-9日にオンラインで開催される旨、報告がなされた。併せて、2022年度大会については開催形式・場所等を含め現時点で未定である旨、報告がなされた。

6. ECDA2021について
中山渉外(国際学会活動)幹事より、2021年7月7日-9日にオランダ・ロッテルダムで開催されるECDA2021について、開催形式、セッション内容、関連する special issue 等について、報告がなされた。

7. IFCS2022について
宿久会長より、IFCS2022は2022年7月19日-23日にポルトガル・ポルトで開催予定である旨、報告がなされた。現段階で詳細は未定。

8. 和文誌について
吉野編集委員会委員長より、和文誌第10巻第1号の準備状況について報告がなされた。投稿促進に向けて、オンラインファーストによる早期刊行の導入、1年に2回の刊行等といった施策を編集委員会で検討する旨、報告がなされた。

9. 広報活動について
土田広報幹事より、従来の広報活動(会報の発行、速報性のある情報のメールニュース配信等)を継続する旨、報告がなされた。

10. 内規の修正について
石岡庶務幹事より、学会賞選考委員会の運営を円滑に進めるため、学会賞内規・フェロー授与内規が修正された旨、報告がなされた。

11. 学会賞について
栗原学会賞選考委員会委員長より、2021年度学会賞の受賞者について報告された。

12. その他
小田会計幹事より、会費の未納期間が3年を超えた会員について、会費請求等の一部を除き、学会からの郵送物を停止する事となった旨、報告がなされた。

◆審議事項

1. 2020年度事業報告・会計報告について
石岡庶務幹事より、2020年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

小田会計幹事より、2020年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。
本報告は、事業・会計報告とあわせて、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

2. 2020年度監査報告について
林(文)2020年度監事より、2021年6月17日に監査を行い、決算報告書・事業報告書・会議議事録等を精査した結果、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われていることが認められた旨、報告がなされた。

3. 2021年度事業計画および予算案について
石岡庶務幹事より、2021年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。
小田会計幹事より、2021年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。
以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

4. フェロー候補者について
栗原学会賞選考委員会委員長より、会員からの推薦に基づいて学会賞選考委員会で評議した結果、水田正弘氏(北海道大学)をフェロー候補者として推薦したい旨の提案があり、全出席者の過半数の賛成で承認された。

5. その他
その他の審議事項なし。

■総会終了後、以下の通り学会賞の表彰式ならびにフェロー称号の授与式を行った。

[貢献賞] 宮本定明 会員 (筑波大学 名誉教授)
[論文賞] 中山厚穂 会員 (東京都立大学 准教授)
[奨励賞] 稲尾 翼 会員 (北海道大学大学院 修士課程 2年)
[フェロー称号] 水田正弘 会員 (北海道大学 教授)

○評議員会議事録

・日本分類学会 2019-20年度 第10回評議員会(ネット)

日時：2021年2月15日(月)～2月22日(月) (メールによる審議)

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第6条に基づき承認された。

1. 会長候補の選出について
2021-2022 年度日本分類学会会長候補として、
宿久 洋 氏 (同志社大学)
を選出した。

2. 入退会について
7名の学生会員の入会について、原案の通り承認された。2名の正会員と2名の学生会員の退会について、原案の通り承認された。

(評議員 20 名のうち回答者数 18 名。回答者数 18 名のうち、審議事項 1 の賛成者数 16 名、審議事項 2 の賛成者数 18 名)

・日本分類学会 2019-20 年度第 11 回評議員会(ネット)

日時：2021 年 3 月 10 日(水)～3 月 16 日(火) (メールによる審議)

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第 6 条に基づき承認された。

1. 入会について
2名の学生会員の入会について、原案の通り承認された。

(評議員 20 名のうち回答者数 18 名。回答者数 18 名のうち、賛成者数 18 名)

・日本分類学会 2019-20 年度 第 12 回評議員会

開催日時：2021 年 4 月 10 日(土)、16:00-17:05
会 場：岡山大学 東京オフィス (東京工業大学 CIC)5階 501 ならびに Zoom によるオンラインでの
並行開催

出席者(敬称略、会長以外は五十音順)：
栗原考次(会長、岡山大学)、足立浩平*(大阪大学)、石岡文生(岡山大学)、大津起夫*(大学入試センター)、岡太彬訓*(立教大学)、小田牧子(防衛医科大学校)、久保田貴文*(多摩大学)、酒折文武*(中央大学)、佐藤美佳*(筑波大学)、清水信夫*(統計数理研究所)、富田 誠(横浜市立大学)、中山厚穂*(東京都立大学)、馬場康維*(統計数理研究所)、水田正弘(北海道大学)、宿久 洋(同志社大学)、山本義郎(東海大学)
今泉 忠(監事、多摩大学)、林 文(監事、東洋英和女学院大学)

(* は Zoom による参加)

委任状提出：
狩野 裕(大阪大学)、竹内光悦(実践女子大学)、
豊田裕貴(法政大学)、林 篤裕(名古屋工業大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数 11 名 (評議員現在数の過半数) に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

1. 役員選挙結果について
石岡評議員(2019-2020 年度庶務幹事)より、選挙結果について報告がなされた。

・3月19日に選挙管理委員(阿部貴行会員・山田実俊会員)による開票が行われた。

・宿久洋会長、今泉忠監事、水田正弘監事が信任多数で当選した。

・下記の 21 名の方が評議員に当選した。

足立浩平、石岡文生、大津起夫、岡太彬訓、小田牧子、狩野 裕、久保田貴文、栗原考次、酒折文武、佐藤美佳、清水信夫、竹内光悦、富田 誠、豊田裕貴、中山厚穂、馬場康維、林 篤裕、林 文、山本義郎、横山 暁、吉野諒三

なお、評議員定数は 20 名であるが、同数得票者がいたため 21 名となっている。

2. 2020 年度シンポジウムについて

富田幹事長(同シンポジウム実行委員長)より、2020 年度シンポジウムを 2021 年 3 月 19 日に松江テルサ(島根県松江市)、およびオンラインによる並行開催を行った旨、報告された。発表件数は 26 件、優秀学生発表賞に坂本健太氏(同志社大学)、瓦井蒼之(同志社大学)が選出されたこと等が報告された。

3. 第 5, 6, 7 回日独分類シンポジウムおよび Post-Proceedings 出版について

今泉氏(同編集担当)より、発行が遅れている日独分類学会 Post-proceedings について、投稿された論文数、および Preface と 3 回の発表タイトル等で規定のページ数に達する目途が立ったことから、ドイツ側と共同で出版準備に取り掛かる旨、報告された。出版は 2021 年 10 月を予定している。

4. IFCS-2017 Financial report の提出

今泉氏(IFCS-2017 組織委員会委員長)より、inancial Report を 2021 年 3 月 31 日末を目標に作成作業を行っていたが未了である旨、報告された。

現状、収入と支出の金額面については内部監査は終了しているが、表現英文の修正等に時間を要しており、IFCS-2017LOC 会計監事、IFCS-2017LOC、公認会計士での正式監査と報告が未了である。

この事に関連して、次のような議論があった。

・書類作成等の業務を外部の専門家へ委託することを検討。

・残金の内で IFCS-2017 主催者の誤りで余分に徴収した金員は、参加者返金するのが筋であり、

その方法の1つとして Post conference volume の e-book 配布の可能性。

・その他、残金の使用用途の検討。(将来的な IFCS 関連活動のために日本分類学会への基金、

専門家雇用のための費用、等)

・IFCS-2017 の報告書での、組織委員会、実行委員会、LOC などの組織関係の表現について統一的な表記を行うよう指摘された。

また、これら残務処理について適切にかつ早急に進めることを確認した。

5. 2021 年度統計関連学会連合大会について

栗原会長より、2021 年度連合大会を 2021 年 9 月 5 日-9 日に長崎大学文教キャンパス(長崎県長崎市)、およびオンラインの並行開催で調整が行われている旨、報告された。

6. ECDA2021 について

栗原会長より、2021 年 7 月 7 日-9 日にオランダ・ロッテルダムで開催予定だった ECDA2021 は、オンライン開催に変更になった旨、報告された。

7. 和文誌について

吉野編集委員会委員長の代理で、大津編集委員会副委員長より、和文誌第 9 巻第 1 号を 2020 年 8 月 1 日に発行した旨、報告された。また、和文誌第 10 巻第 1 号の準備状況について説明がなされた。

8. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 入退会について

石岡庶務幹事より、2021 年 3 月 16 日以降の退会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、1 名の正会員の退会、および 2 名の学生会員の退会について、原案の通り承認された。

併せて、1 名の物故者、11 名の種別変更者(内、9 名は卒業に伴う自動変更)があった旨、報告された。

2. 2020 年度事業報告について

石岡庶務幹事より、2020 年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

審議の結果、記載内容の日付等に一部誤りが認められたため、その部分を修正の上、原案の通り承認された。

3. 2020 年度会計報告について

小田会計幹事より、2020 年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。

また、シンフォニカへの業務委託に係る箇所において一部未完成の部分があるが、

5 月に実施予定の監査までには修正する旨、説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認された。

4. 第 40 回総会について

栗原会長より、第 40 回総会を第 40 回大会中に開催する方向で調整している旨、説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認された。

5. 第 40 回大会について

栗原会長より、第 40 回大会を林邦好実行委員長(聖路加国際大学)の下、6 月~7 月の開催に向けて調整中である旨の説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

6. 2021 年度シンポジウムについて

富田幹事長より、第 40 回大会以降、2021 年度内の開催に向けて調整する旨、説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認された。

7. 第 8 回日独分類シンポジウムについて

水田渉外(国際学会活動)幹事(同シンポジウム担当)より、コロナ禍の影響により延期している

同シンポジウムについて、会場の目途は立っているが、具体的な日程等を示すのはまだ難しい状況である旨、説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

8. その他

その他の審議事項なし。

・日本分類学会 2021-22 年度 第 1 回評議員会

開催日時：2021 年 4 月 10 日(土)、17:15-17:55

会 場 : 岡山大学 東京オフィス (東京工業大学 CIC) 5階 501ならびに Zoom によるオンラインでの並行開催

出席者(敬称略, 会長以外は五十音順) :

宿久 洋(会長, 同志社大学), 足立浩平*(大阪大学), 石岡文生(岡山大学), 大津起夫*(大学入試センター), 岡太彬訓*(立教大学), 小田牧子(防衛医科大学校), 久保田貴文*(多摩大学), 栗原考次(岡山大学), 酒折文武*(中央大学), 佐藤美佳*(筑波大学), 清水信夫*(統計数理研究所), 富田 誠(横浜市立大学), 中山厚穂*(東京都立大学), 馬場康維*(統計数理研究所), 林 文(東洋英和女学院大学), 山本義郎(東海大学), 横山 暁*(青山学院大学) 今泉 忠(監事, 多摩大学), 水田正弘(監事, 北海道大学) (* は Zoom による参加)

委任状提出 :

狩野 裕(大阪大学), 竹内光悦(実践女子大学), 豊田裕貴(法政大学), 林 篤裕(名古屋工業大学), 吉野諒三(同志社大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数 11 名 (評議員現在数の過半数) に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

1. 役員選挙結果について

石岡評議員(2019-2020 年度庶務幹事)より, 選挙結果について報告がなされた。

・3月19日に選挙管理委員(阿部貴行会員・山田実俊会員)による開票が行われた。

・宿久洋会長, 今泉忠監事, 水田正弘監事が信任多数で当選した。

・下記の21名の方が評議員に当選した。

足立浩平, 石岡文生, 大津起夫, 岡太彬訓, 小田牧子, 狩野 裕, 久保田貴文, 栗原考次, 酒折文武, 佐藤美佳, 清水信夫, 竹内光悦, 富田 誠, 豊田裕貴,

中山厚穂, 馬場康維, 林 篤裕, 林 文, 山本義郎, 横山 暁, 吉野諒三

なお, 評議員定数は20名であるが, 同数得票者がいたため21名となっている。

2. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 幹事長の選出について

宿久会長より, 2021-2022 年度幹事長として, 富田評議員が推薦され, 承認された。

2. 幹事について

富田幹事長より, 幹事会については基本的には 2019-2020 年度のメンバーから大きく変えない方向で調整したい旨, 提案がなされた。続いて, 新幹事については, 本来, 評議員会で承認するものであるが, 新年度から幹事会が速やかに活動できるよう新幹事の承認はメール審議で行いたいとの提案がなされた。審議の結果, 原案の通り承認された。

3. 2020 年度事業報告について

石岡評議員(2019-2020 年度庶務幹事)より, 2020 年度事業報告について, 資料に基づき説明がなされた。審議の結果, 記載内容の日付等に一部誤りが認められたため, その部分を修正の上, 原案の通り承認された。

4. 2020 年度会計報告について

小田評議員(2019-2020 年度会計幹事)より, 2020 年度会計報告について, 資料に基づき説明がなされた。また, シンフォニカへの業務委託に係る箇所において一部未完成の部分があるが, 5 月に実施予定の監査までには修正する旨, 説明がなされた。審議の結果, 原案の通り承認された。

5. 2021 年度事業計画案について

(2019-2020 年度評議員会から 2021-2022 年度評議員会への引継ぎとして)石岡評議員(2019-2020 年度庶務幹事)より, 概ね例年通りの事業を計画しており, 幹事会発足後に速やかに計画案を作成する旨, 説明がなされた。

審議の結果, 原案の通り承認された。

6. 2021 年度事予算案について

(2019-2020 年度評議員会から 2021-2022 年度評議員会への引継ぎとして)小田評議員(2019-2020 年度会計幹事)より, 概ね例年通りの予算を計画しており, 幹事会発足後に速やかに予算案を作成する旨, 説明がなされた。

審議の結果, 原案の通り承認された。

7. 和文誌について

吉野編集委員会委員長の代理で, 大津編集委員会副委員長より, これまで編集委員会副委員長を務めてきた宿久会員が会長に就任したのに伴い, 宿久会員が編集委員を辞任し, 横山会員を新たに編集委員会副委員長

に推薦したい旨、提案がなされ、原案の通り承認された。

また、新たに4名を編集委員に推薦したい旨、提案がなされた。4名の内、1名は非会員であったため、非会員の編集委員会への追加は評議員会の承認事項であることから、審議の結果、原案の通り承認された。

なお、被推薦者に対し、本人の承諾を得た後で正式追加する、および、会費の納入状況を確認する事とした。

8. その他

宿久会長より、経済的支援が発生しない事を確認の上、国際学会 IASC-ARS2022 の後援を承諾した旨の報告があり、承認された。

馬場評議員より、過去の学会活動の参照のため、現在HPでは公開していないNo.15以前の会報もHPに掲載してはどうかとの提案があり、議論の結果、掲載する方向で調整する事となった。

・日本分類学会 2021-22 年度 第2回評議員会 (ネット)

日時：2021年4月13日(火)～23日(金) (メールによる審議)

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第6条に基づき承認された。

1. 2021-2022年度の幹事の選出について

[会長] 宿久 洋(同志社大学)

[幹事長] 富田 誠(横浜市立大学)

[庶務] 石岡文生(岡山大学), 竹内光悦(実践女子大学), 山本義郎(東海大学)

[会計] 小田(伊達木)牧子(防衛医科大学校), 阿部寛康(京都大学)

[広報] 土田 潤(同志社大学)

[企画] 久保田貴文(多摩大学), 豊田裕貴(法政大学), 林 邦好(聖路加国際大学)

[渉外] 佐藤美佳(筑波大学), 栗原考次(岡山大学)

[渉外(国際学会活動)] 酒折文武(中央大学), 中山厚穂(東京都立大学)

[ジャーナル] 吉野諒三(同志社大学), 大津起夫(大学入試センター)

[IFCS Council] 栗原考次(岡山大学), 宿久 洋(同志社大学)

(評議員 21名のうち回答者数 20名。回答者数 20名のうち、賛成者数 20名)

・日本分類学会 2021-22 年度 第3回評議員会

開催日時：2021年7月2日(金), 16:20-18:20

会場：Zoom によるオンラインでの開催

出席者(敬称略, 会長以外は五十音順)：

宿久 洋(会長, 同志社大学), 足立浩平(大阪大学), 石岡文生(岡山大学), 大津起夫(大学入試センター), 岡太彬訓(立教大学), 小田牧子(防衛医科大学校), 久保田貴文(多摩大学), 栗原考次(岡山大学), 清水信夫(統計数理研究所), 富田 誠(横浜市立大学), 豊田裕貴(法政大学), 中山厚穂(東京都立大学), 林 篤裕(名古屋工業大学), 林 文(東洋英和女学院大学), 山本義郎(東海大学), 吉野諒三(同志社大学)

今泉 忠(監事, 多摩大学)

委任状提出：

酒折文武(中央大学), 佐藤美佳(筑波大学), 竹内光悦(実践女子大学), 馬場康維(統計数理研究所), 横山 暁(青山学院大学)

陪席幹事：

阿部寛康(京都大学), 土田 潤(同志社大学), 林 邦好(聖路加国際大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数 11名 (評議員現在数の過半数) に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

1. 第40回大会について

林邦好幹事(同大会実行委員長)より、2021年7月3日に聖路加国際大学大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター(東京都中央区), およびオンラインで並行開催される第40回大会の準備状況について報告がなされた。

2. 2021年度シンポジウムについて

富田幹事長(同シンポジウム実行委員長)より、2021年度シンポジウムを2021年12月11日-12日に大濱信泉記念館(沖縄県石垣市), およびオンラインによる並行開催で準備を進めている旨、報告がなされた。

3. 2021年度データ分析セミナーについて
富田幹事長より、2021年度データ分析セミナーの準備状況について報告がなされ、開催形式、テーマ、開催時期等について説明がなされた。

4. 第5, 6, 7回日独分類シンポジウムおよび Post-Proceedings 出版について

今泉氏(同編集担当)より、発行が遅れている日独分類学会 Post-proceedings について、現在ドイツ側担当者 と Preface, Chapter 構成、付録等を作成中である旨、報告がなされた。出版は2021年10月に紙媒体での発行を予定している。

5. IFCS-2017 Financial report の提出

今泉氏(IFCS-2017 組織委員会委員長)より Financial Report について、収入と支出の金額面についての内部監査は終了しているが、IFCS-2017LOC 会計監事、IFCS-2017LOC、公認会計士による正式監査と報告が未了である旨、報告がなされた。この事に関連して、次のような報告がなされた。

- ・書類作成等の業務は外部の専門家へ委託済み。
- ・IFCS-2017 出版担当の今泉氏の出版費用に関する誤解から生じた過剰徴収への対応として、何からの形で参加者個人に返金することを検討中である。
- ・その対応として、e-Book として追加配布を行う事を検討中である。なお、すでに発行済みの冊子体の最終的な出版支出額は現時点で未確定だが、概算では出版予算を超過する見込みである。
- ・その他、残金の使用用途を検討中である。
(将来的な IFCS 関連活動のための日本分類学会への基金、各種処理に関わる専門家雇用の費用、等)
- ・IFCS-2017 の報告書における、組織委員会、実行委員会、LOC などの組織関係の表現について 統一的に表記する。

6. 第8回日独分類シンポジウムについて

宿久会長より、コロナ禍の影響により延期している同シンポジウムについて、具体的な日程等を示すのは難しい状況であるが、水田氏(同シンポジウム担当)とともに開催に向けて引き続き調整を行う旨、報告がなされた。

7. 2021年度統計関連学会連合大会について

宿久会長より、2021年度連合大会は2021年9月5日-9日にオンラインで開催される旨、報告がなされた。

併せて、2022年度大会については開催形式・場所等を含め現時点で未定である旨、報告がなされた。

8. ECDA2021 について

中山渉外(国際学会活動)幹事より、2021年7月7日-9日にオランダ・ロッテルダムで開催される ECDA2021 について、開催形式、セッション内容、関連する special issue 等について、報告がなされた。

9. IFCS2022 について

宿久会長より、IFCS2022 は2022年7月19日-23日にポルトガル・ポルトで開催予定である旨、報告がなされた。現段階で詳細は未定。

10. 和文誌について

吉野編集委員会委員長より、和文誌第10巻第1号の準備状況について報告がなされた。投稿促進に向けて、オンラインファーストによる早期刊行の導入、1年に2回の刊行等といった施策を編集委員会で検討する旨、報告がなされた。

11. 広報活動について

土田広報幹事より、従来の広報活動(会報の発行、速報性のある情報のメールニュース配信等)を継続する旨、報告がなされた。

12. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 入退会について

石岡庶務幹事より、2021年4月10日以降の入退会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、3名の正会員と5名の学生会員の入会、および3名の正会員と1名の学生会員の退会について、原案の通り承認された。

さらに1名の退会希望の正会員については、本会对し多大な貢献がある事や、2021年度の会費は納入済みである事を考慮し、このタイミングでの退会については見送る事とした。

宿久会長より、本会对する貢献が特に顕著な会員の退会について、その退会理由によっては本人の意思を確認の上、何らかのかたちで会員を継続できるような制度を検討する旨、説明がなされた。

2. 2020年度事業報告について

石岡庶務幹事より、2020年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認され、評議員会に上程することとなった。

3. 2020年度会計報告について

小田会計幹事より、2020年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認され、評議員会に上程することとなった。

4. 2020年度監査報告について

今泉監事より、6月17日に監査を行い、決算報告書・事業報告書・会議議事録等を精査した結果、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われていることが認められた旨、報告がなされた。

5. 2021年度事業計画案について

石岡庶務幹事より、2021年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認され、評議員会に上程することとなった。

6. 2021年度予算案について

小田会計幹事より、2021年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認され、評議員会に上程することとなった。

7. 2022年度の大会、シンポジウムについて

富田幹事長より、2022年度の大会・シンポジウムの詳細については現段階では未定であるが、今後は、大会(総会)は首都圏開催、シンポジウムは地方開催という慣例を踏襲しつつも、昨今の本会のオンラインでの開催実績を踏まえ、開催場所について柔軟に検討を行っていく旨、説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

8. 学会賞について

栗原学会賞選考委員会委員長より、2021年度学会賞について下記の選考結果が報告された。

【貢献賞】宮本定明 会員 (筑波大学 名誉教授)

【論文賞】中山厚穂 会員 (東京都立大学 准教授)

【奨励賞】稲尾 翼 会員 (北海道大学大学院 修士課程 2年)

審議の結果、原案の通り承認された。

9. フェロー候補者について

栗原学会賞選考委員会委員長より、2021年度フェロー称号について、

水田正弘 会員 (北海道大学 教授)

が選考された旨、説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

10. 内規の修正について

栗原学会賞選考委員会委員長より、学会賞選考委員会の運営を円滑に進めるため、学会賞内規・フェロー授与内規の改定案が提案され、審議の結果、原案の通り承認された。

学会賞内規：

第5条(1)：また学会賞選考委員が学会賞に推薦された場合、当該年度の審議に一切加わらないとする

⇒ また学会賞選考委員が学会賞に推薦された場合、当該年度において推薦された学会賞の審議に一切加わらないとする

フェロー授与内規：

第5条(1)：学会賞選考委員会に関わる規定は学会賞内規の第5章第5条の(1)に則るものとする

⇒ 学会賞選考委員会に関わる規定は学会賞内規の第5章第5条の(1)に準拠するものとする

11. 2021年度総会の次第について

石岡庶務幹事より、日本分類学会 2021 総会の議事について提案がなされ、審議の結果、一部誤字を修正の上、承認された。

12. その他

宿久会長より、「幹事」について、「監事」との混同による運用上の煩雑さや、実際の学会運営の執行機関を担っている事等を考慮し、幹事の名称を「理事」に変更する事の提案がなされた。種々の議論の結果、継続審議となった。

小田会計幹事より、会費長期未納者に対する郵送物停止について提案があり、種々の議論の結果、会費の未納期間が3年を超えた場合には郵送物を停止する事が承認された。なお、会員の除名処分に関わる制度については継続審議とする事を確認した。

・日本分類学会 2021-22 年度 第 4 回評議員会(ネット)

日時：2021 年 11 月 24 日(水)～11 月 30 日(火) (メールによる審議)

◆審議事項

下記審議事項について，評議員会内規第 6 条に基づき承認された。

1. 入会について

1 組織・19 名の入会について，原案の通り承認された。

(評議員 21 名のうち回答者数 20 名. 回答者数 20 名のうち，賛成者数 20 名)

単位:円

科目	予算額	決算	増減	備 考
I 収入の部				
1 入会金収入	20,000	8,000	△ 12,000	2,000 円×4 人(正会員)
2 会費収入	780,000	820,000	40,000	納入率72%
正会員	560,000	567,000	7,000	5,000 円×113 人(納入率:72%)
シニア会員	18,000	15,000	△ 3,000	3,000 円×5 人(納入率:71%)
学生会員	52,000	48,000	△ 4,000	2,000 円×24 人(納入率:88%)
賛助会員	100,000	100,000	0	50,000 円×2 名(納入率:100%)
前年度以前分	50,000	83,000	33,000	
前受金	0	7,000	7,000	
3 論文誌関係収入	290,000	348,340	58,340	
論文販売上	0	0	0	
予備販売上	0	0	0	
広告収入	160,000	160,000	0	50,000×2誌+30,000×2誌(Vol.9)
別刷代金	30,000	22,220	△ 7,780	別刷り(Vol.9)立替分
論文誌関係収入	100,000	164,120	64,120	Tax化料金(Vol.9)、異種誌(Vol.8)立替分
4 雑収入	311,828	181,828	△ 129,999	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	200,000	0	△ 200,000	セミナー等はなし
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	111,828	161,828	50,000	第36、39回大会、2019年シンポジウム寄附
利子収入	0	1	1	銀行口座利子
その他	0	20,000	20,000	年会費2重課込
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	選挙費
A 当期収入合計	1,428,828	1,381,169	△ 45,659	
B 前期繰越収支差額	3,221,530	3,221,530	0	
C 収 入 合 計 (A+B)	4,648,358	4,602,699	△ 45,659	
II 支出の部				
1 論文誌発行業務費	670,000	589,967	80,033	
和文誌	500,000	381,627	118,373	Vol.9、送料含む
別刷代金	30,000	22,220	7,780	
論文誌関係支出	100,000	32,450	67,550	Tax化料金、カラー化料金
J-Stage登録作業費	40,000	22,000	18,000	5000円/税別)×4件
その他	0	131,670	△ 131,670	異種誌分
2 事業費	483,800	297,608	186,192	
大会・シンポジウム運営補助費	100,000	50,000	50,000	2020年シンポジウム分(第39回大会分は支払い済み)
セミナー運営補助費	50,000	0	50,000	
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	0	5,000	
学食費・フェロー経費	80,000	17,257	62,743	学食費負担状況費、フェロー認定経費
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	50,000	71,531	△ 21,531	
J-Stage学会誌公開費用	138,800	138,800	0	Vol.1-6のJ-Stageデータ作成料
新入会員特典	40,000	20,220	19,780	6名利用
その他	0	0	0	
3 学会運営食費	47,000	0	47,000	
幹事会・評議員会・総会等運営費	45,000	0	45,000	オンライン開催のため
その他	2,000	0	2,000	
4 事務費	243,940	261,277	△ 17,337	
事務委託費	150,440	150,440	0	統計情報研究開発センターへの事務局事務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	0	10,000	
事務用品・消耗品費	25,000	19,392	5,608	
ウェブ運営管理費	3,500	3,344	156	ドメイン維持費
会報印刷費	50,000	59,840	△ 9,840	会報 No.39
印刷費	5,000	8,041	△ 3,041	
その他	0	20,220	△ 20,220	年会費2重課込の返金(1名分)
5 通信・郵送費	60,000	71,383	△ 11,383	
会報等送料	25,000	25,340	△ 340	
会費請求等連絡通信費	20,000	17,388	2,612	会費請求に関する書留等の送付
その他	15,000	28,655	△ 13,655	学食費・フェローなどの書類郵送費等
6 負担金	20,220	20,220	0	
IFCS	0	0	0	前年度支払い済み
統計関連学会連合	20,220	20,220	0	2020年分(課込手数料を含む)
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	0	0	0	
IFCS負担金のための積立	25,000	25,000	0	
日独分譲シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	
8 平攤費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	1,555,780	1,290,455	265,325	
E 当期収支差額 (A-D)	△ 128,952	80,714	△ 219,666	
F 前期繰越収支差額 (C-E)	3,092,698	3,312,244	△ 219,546	
G 支 出 合 計 (D+F)	4,648,358	4,602,699	△ 45,659	

日本分譲学会会則第10条に基づき、2020年4月1日より2021年3月31日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。

2021年 6月 17日
監事

今泉 忠 印

監事

林 文 印

(実際の決算報告書には各筆の署名と押印あり)

2021年度予算
2021年4月1日から2022年3月31日まで

日本分類学会

単位:円

科目	予算額	前年度予算	増減	備 考
I 収入の部				
1 入会金収入	20,000	20,000	0	2,000円×10人として算出
2 会費収入	857,000	780,000	77,000	
正会員	600,000	560,000	40,000	5,000円×(180人×0.75+120人)として算出
シニア会員	15,000	18,000	△ 3,000	3,000円×(7人×0.75+5人)として算出
学生会員	42,000	52,000	△ 10,000	2,000円×(28人×0.75+21人)として算出
賛助会員	100,000	100,000	0	50,000円×2口として算出
前年度以前分	80,000	50,000	30,000	2020年度収入は63,000円
前受金	20,000	0	20,000	
3 論文誌関係収入	290,000	290,000	0	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
広告収入	160,000	160,000	0	論文誌 Vol.10 の広告収入、実績より算出
別刷代金	30,000	30,000	0	別刷り (Vol.10) 立替分
論文誌関係雑収入	100,000	100,000	0	Tax化料金、カラー印刷代金 (Vol.10) 立替分
4 雑収入	460,000	311,828	148,172	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	460,000	200,000	260,000	データ分析セミナー、法政M共催セミナー
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	111,828	△ 111,828	
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
預立より繰入	25,000	25,000	0	IFCS年会費預立より移動
A 当期収入合計	1,652,000	1,426,828	225,172	
B 前期繰越収支差額	3,312,244	3,221,530	90,714	
C 収入合計 (A+B)	4,964,244	4,648,358	315,886	
II 支出の部				
1 論文誌発行業務費	670,000	670,000	0	
和文誌	500,000	500,000	0	Vol.10 送料を含む。
別刷代金	30,000	30,000	0	Vol.10
論文誌関係雑支出	100,000	100,000	0	Vol.10
J-Stage登録作業費	40,000	40,000	0	Vol.10、1論文あたり5000円(税抜)
その他	0	0	0	
2 事業費	435,000	463,600	28,600	
大会・シンポジウム運営補助費	100,000	100,000	0	大会とシンポジウムの補助
セミナー運営補助費	250,000	50,000	△ 200,000	講師謝礼、交通費・資料作成費等
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	5,000	0	学会パンフレット作成費
学会賞・フェロ経費	40,000	80,000	40,000	最新社・フェロ-総務部賞、大会参加賞、優秀学生発表賞
名簿作成	0	0	0	今年度実施計画なし
選挙経費	0	50,000	50,000	
J-Stage学会誌公開費用	-	138,600	0	全てのバックナンバー公開済みのため
新入会員特典	40,000	40,000	0	学生会員10人分の新入会員の大会、シンポジウム参加費
その他	0	0	0	
3 学会運営会費	32,000	47,000	15,000	
幹事会・評議員会・総会等運営費	30,000	45,000	15,000	実績より算出
その他	2,000	2,000	0	実績より算出
4 事務費	318,940	243,940	△ 75,000	
業務委託費	150,440	150,440	0	統計情報研究開発センターへの事務局長業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	100,000	25,000	△ 75,000	封筒等の支払い済みのものと実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	ドメイン維持費、実績より算出
会報印刷費	50,000	50,000	0	会報 No.40
印刷費	5,000	5,000	0	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	70,000	60,000	△ 10,000	
会報等送料	25,000	25,000	0	会報 No.40
会費請求等連絡通信費	30,000	20,000	△ 10,000	会費請求に関する資料等の送付
その他	15,000	15,000	0	大会(総会)案内、各学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	70,220	20,220	△ 50,000	
IFCS	50,000	0	△ 50,000	2021、2022年度分会費
統計関連学会連合	20,220	20,220	0	2021年度分、振込手数料を含む
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	25,000	0	△ 25,000	選挙のための積立
IFCS負担金のための積立	0	25,000	25,000	
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	日独分類シンポジウム開催時のための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,647,160	1,555,760	△ 91,400	
E 当期収支差額 (A-D)	4,840	△ 128,932	△ 133,772	
F 次期繰越収支差額 (C-E)	3,317,084	3,092,598	△ 224,486	
G 支出合計 (D+E)	4,964,244	4,648,358	△ 315,886	

事務局から

● 学会誌への論文投稿について

学会大会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society)

およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group) と共同で、2007年より Springer 社から刊行しております(年間3冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

● 会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンレイガッカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンレイガッカイジムキョク

● ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>) のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■ 編集後記

今号に寄稿頂いた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございました。本紙面を借りて、お礼申し上げます。2021年も様々な学会・研究会がオンラインやハイブリッドでの開催になりました。本学会では大会とシンポジウムの両方とも対面とオンラインのハイブリッドの形で開催となりました。会報に関して、掲載記事の関係もあり発行間隔があいてしまいました。ここにお詫び申し上げます。

会報では学会活動報告の他、各種賞の受賞者の言葉なども盛り込み、発行していく予定です。また、メールニュース等でも情報発信をしております。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、下記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

広報幹事 土田潤 (同志社大学)

広報委員 阿部寛康 (京都大学)、谷岡健資 (同志社大学)、横山暁 (青山学院大学)、山田実俊 (東海大学)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>